

千葉市花輪貝塚出土の埋設注口土器の系譜(1)

-関東地方における土壙出土の注口土器集成から-

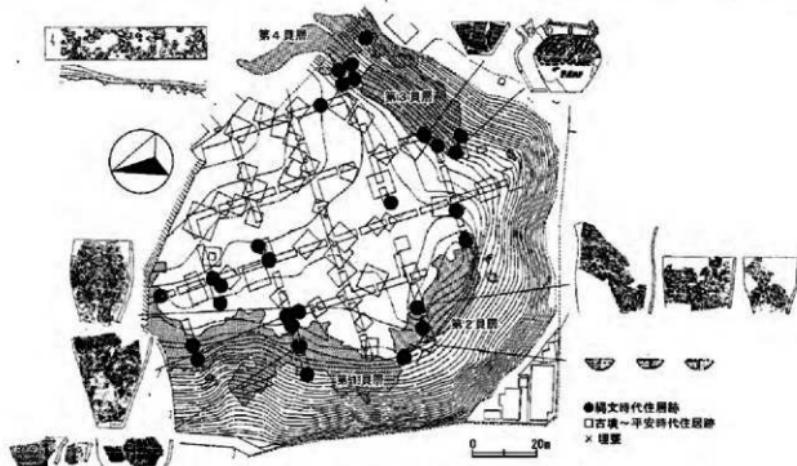
田 中 英 世

はじめに

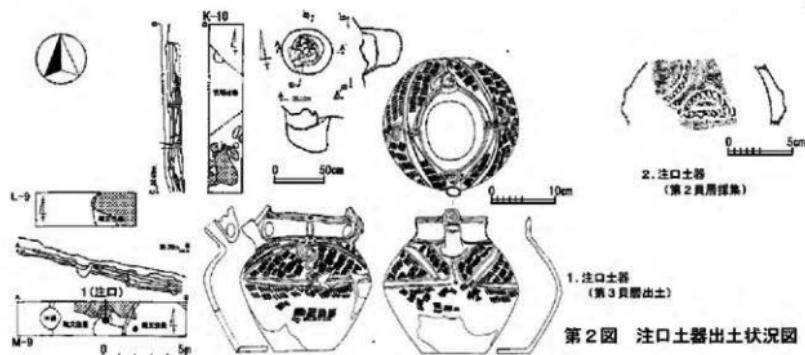
花輪貝塚は、2003(平成15)年度に確認調査を行ない、2005(平成17)年に国の指定を受けた。その際、埋設された注口土器が出土し、報告書では神奈川県帷子峰遺跡第54号土壙に類例を求めるが、大きな誤りであった。2007(平成19)年2月に、千葉市立加曽利貝塚博物館の郷土史講座で、この注口土器を中心に『史跡花輪貝塚の確認調査の成果』と題し講演を行ったが、検討が不十分であった。今回は訂正の意味も含め、関東地方における土壙出土の注口土器集成を行い、花輪貝塚出土の注口土器の系譜を追ってみたい。

1. 花輪貝塚の概略(第1図・第2図)

花輪貝塚は、加曽利貝塚の南西900mに位置し、縄文時代後期掘立式期のみで形成された直径120mの環状貝塚である。2003(平成15)年の確認調査の結果、縄文時代の住居29軒、古墳～平安時代の住居50軒が検出された他、人骨1体・屋外埋設深鉢土器2基が検出された(1図)。注口土器は、第3貝層の南側先端部の斜面部のL-9グリッドから出土。0.56×0.52mと、土器より一回り大きな掘方を有する埋設土



第1図 花輪貝塚全体図



第2図 注口土器出土状況図

器で、正位の潰れた状態で出土した(2図)。形状は球形を呈し、注口部と把手が連結しており、胴部上半には2本1組の沈線と磨消繩文により半円の文様を描出し、把手と直交する位置には、沈線による渦文を描出している。表面は丁寧に磨かれており光沢を有する(文献1)。

2. 関東地方の土壌出土の注口土器(第3図～第18図)

関東地方の、土壌出土の注口土器を、第1表の出土状況別に分類し、集成を行った結果が第2表である。時期は、I期～中期後半・加曾利E3・E4式期 II期～後期前半・称名寺～堀之内2式期 III期～後期中葉・加曾利B～曾谷式期 IV期～後期後半・安行1～安行2式期 V期～晚期前半・安行3a～安行3d式期 VI期～晚期後半・千網～荒海式期に分け、図は県単位で集成し、土器は原則1/10としたが、遺構縮尺は任意であり、原本で確認して頂きたい。

A-掘り込みを伴わない例

1. デボ的出土例 a-単独出土 I期-武藏台(17図1)(東京)。加曾利E4式の瓢型注口土器に6点の磨製石斧を内蔵し、蓋に使用した浅鉢形土器を伴う。正位。II期-桜塚(東京)、堀之内1式の注口土器に磨製石斧3点を内蔵する。このような例は、他に10点の磨製石斧を内蔵した戸塚向山6号住居(埼玉)例があるのみである。

2. 埋設出土例 a-単独出土 II期-椎子峯(15図1)(神奈川)・国衙(19図1)・下綱引II U1号埋設土器(19図3)(群馬)。椎子峯例は、堀之内1式の瓢形の底部穿孔土器で、類例は山梨県中谷遺跡例がある(文献2)。国衙例は、堀之内1式の浅鉢形土器。稲荷通りA U1号土器埋設遺構(19図2)(群馬)は、同系列の浅鉢形土器の注口部が瘤みに形骸化した土器、共に逆位で出土。下綱引II例は、堀之内2式の球胴形土器が斜位で出土。

b-他の土器と複数個体出土例 II期-寺ノ代011遺構(3図1)(千葉)。正位4点の屋外埋設土器に伴って算盤玉形の注口土器が出土。黒色土中で明確な掘り込みが認められない等で、花輪貝塚1号・2号埋設土器と共通している。III期-株木東11号埋甕(千葉)。堀之内1式の浅鉢形土器が共伴しており、斜位で出土(註1)。

3. 包含層出土例 II期-氷川前第7地点(9図1)(埼玉)。球胴形注口土器が正位の状態で出土。III期

一本目(9図2)(埼玉)・大磯小学校(16図18)(神奈川)。本目例は、注口土器2点と小形深鉢形土器がセットで出土。土壙墓と思われ、大磯小学校例も同様のセットが認められる(註2)。Ⅴ期一黒谷田端前(9図3)(埼玉)。晩期の包含層中から注口土器を含む完形土器18点が、径9mの円形の範囲から出土。土器は置かれた状態ではなく、各ブロック毎に一括廃棄された可能性がある。包含層や貝層から掘り込みを伴わずに出土する例は非常に多く、今後これらの例を再度検討する必要がある。

B-土壤出土

1-注口土器より一回り大きな土壤からの出土例。埋設土器と捉えられる。**a-単独出土** Ⅱ期一花輪(2図1)(千葉)・北原(No.9)J2号埋設土器(15図3)・遠藤広谷7号土壤(15図4)(神奈川)・八剣SK628(13図1)・ハックトシャヤSX02(13図2)・塙平SK377(13図3)・小鍋前SK956(13図5)・寺野東埋105(14図23)(栃木)・中江田A1号土壤(19図4)・内匠上之宿7号埋設土器(19図5)・天神原D5(19図8)・中島D20(19図9)(群馬)・明戸東SK225(9図4)(埼玉)。北原例は瓢形土器。花輪例と共に正位。遠藤広谷と群馬県の4例は、何れも浅鉢形土器で逆位。ハックトシャヤ例は、網取1式の浅鉢形土器が合口の蓋の状態で出土。寺野東例は正位。八剣例は瓢形土器。塙平例・小鍋前例は横位。Ⅲ期一久原小学校内J1号埋設土器(17図2)(東京)。正位。Ⅳ期一雅楽谷13号土壤(9図6)(埼玉)。正位。

b-他の土器と複数個体出土例 Ⅰ期一さらら1号土壤(9図9)(埼玉)。Ⅱ期一神明61号土壤(9図10)(埼玉)・坂詰35号土壤(19図13)(群馬)。神明例は算盤玉形の注口土器と深鉢形土器の大形破片が伴出。坂詰35号土壤では、開口部に底部を欠損した注口土器が、礫及び石皿・磨石30点と共に出土し、土壤底面には底部を欠いた深鉢形土器が据え置かれた状態で出土。Ⅳ期一雅楽谷5号土壤(9図7)(埼玉)。注口土器1・浅鉢形土器2・台付浅鉢形土器1・台付鉢形土器1・深鉢形土器5点が伴出。

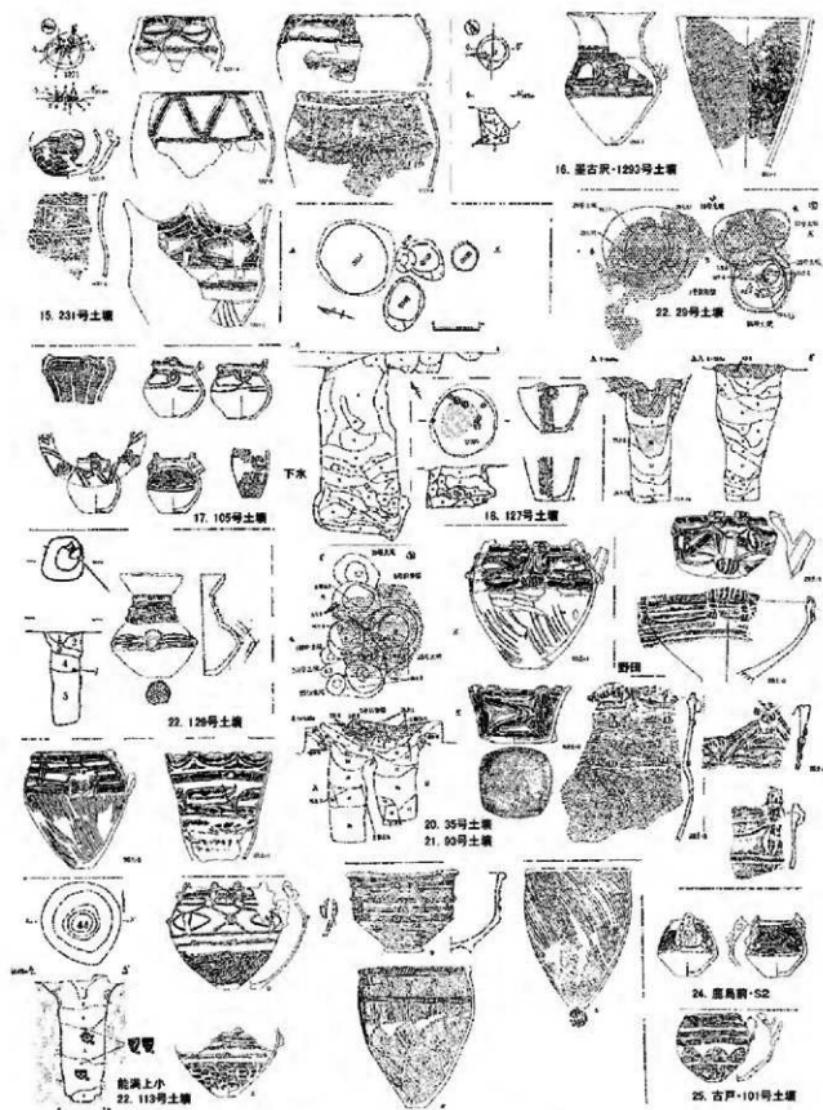
2-浅い土壤からの出土例 **a-単独出土** Ⅰ期一聖山公園134号土壤(13図4)(栃木)。加曾利E4式の浅鉢形土器が正位で出土。Ⅱ期一紙園原71号土壤(3図2)・岩名47号土壤(3図4)・小菅法華塚II4号土壤(3図5)(千葉)・鴨谷5号土壤(9図13)・入波沢西1号土壤(9図14)・明神前134号土壤・高井東71号土壤(9図5)(埼玉)・中島D185(19図10)・阿佐実(9次)7号土壤(群馬)。明神前例は底部穿孔。高井東・阿佐実例は墓壙の副葬品。Ⅴ期一馬場小室山12号土壤(11図25)(埼玉)。

b-他の土器と複数個体出土例 Ⅰ期一羽沢大道39号土壤(15図7)(神奈川)。Ⅱ期一内野第1D185(3図10)・曾谷27地点2号土壤(3図14)(千葉)・神明172号土壤(9図11)(埼玉)・上り戸SK1419(13図11)・小鍋前SK367(13図6)・荻ノ平SK24(10図10)・三輪仲町SK161(14図14)(栃木)・岡上丸山(15図8)・篠原大原北5号土壤(15図6)(神奈川)・東山丁地点3号土壤(17図6)(東京)・白倉B区148号土壤(20図14)・同150号土壤(20図15)・柳田35号土壤(20図16)・亜佐美(6次)327号土壤・陣馬11号土壤(群馬)。神明172号土壤からは、注口土器と小型深鉢形土器が据え置かれた状態で出土。179号土壤からは、注口土器の出土はないが「切断蓋付土器」と注口土器に類似する浅鉢形土器が同様の状態で出土している。三輪仲町例は細かい破片で出土。柳田35号土壤からは、注口土器1・深鉢形土器3点が伴出。岡上丸山と亜佐美(6次)327号土壤からは小形深鉢形土器とセットで出土。Ⅲ期一前田村325号土壤(7図6)(茨城)。Ⅴ期一里古沢1231土壤(4図15)(千葉)・雅楽谷26号土壤(9図8)・東北原11号土壤(9図15)(埼玉)。雅楽谷26号土壤からは、注口土器1・浅鉢形土器1・深鉢形土器2点が出土。

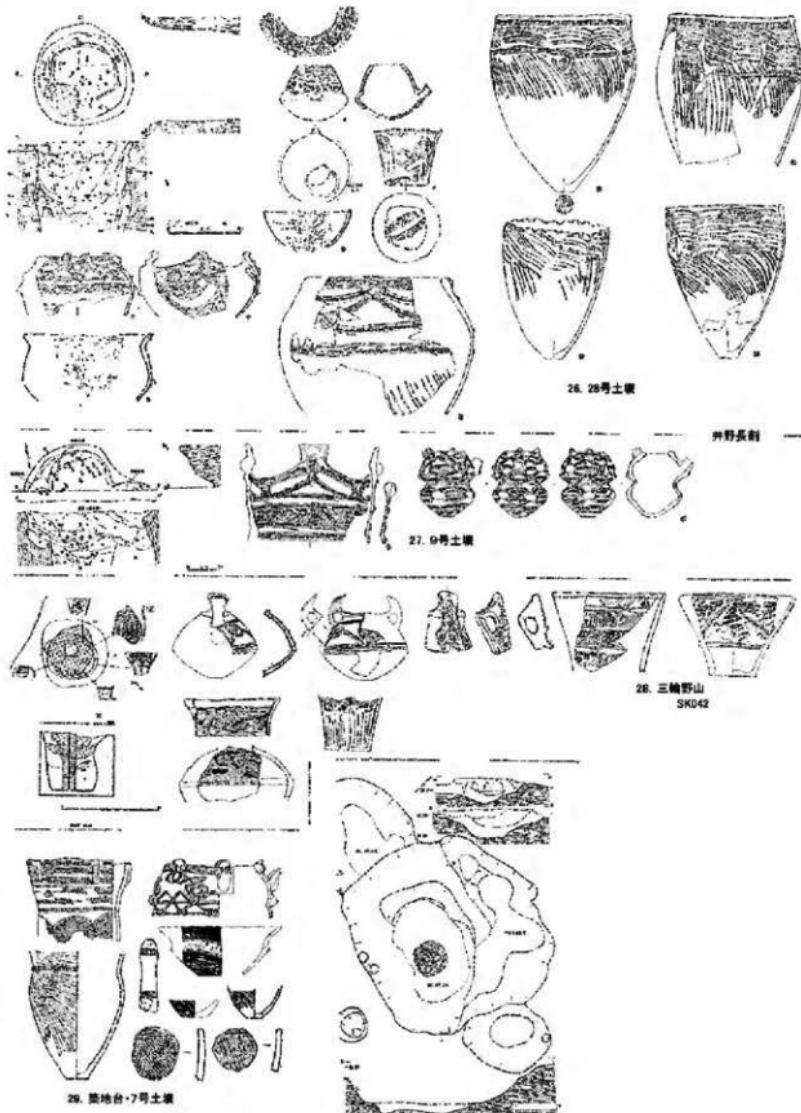
3-一小塹穴からの出土例 **a-単独出土** Ⅰ期一江原台321号土壤(3図12)(千葉)。Ⅱ期一小塹SK9



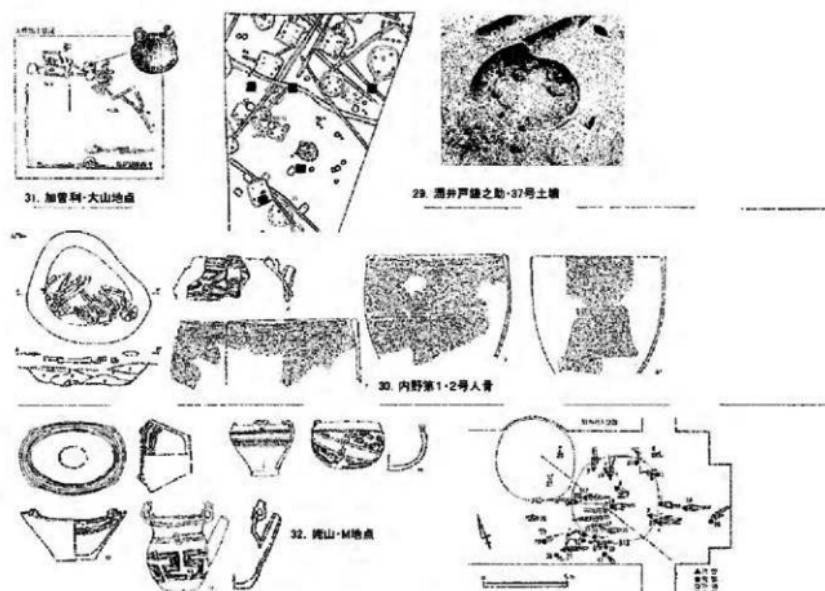
第3図 注口土器集成図—千葉県(2)—



第4図 注口土器集成図—千葉県(2)—



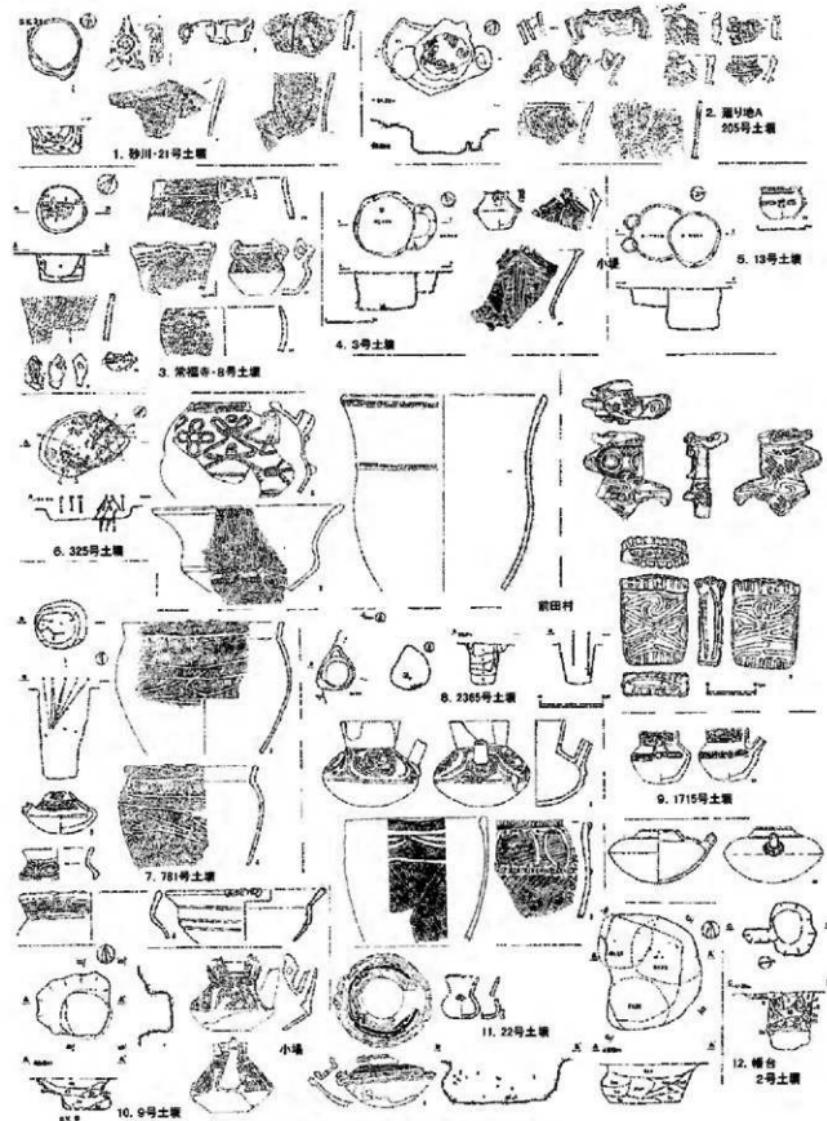
第5図　注口土器集成図—千葉県(3)—



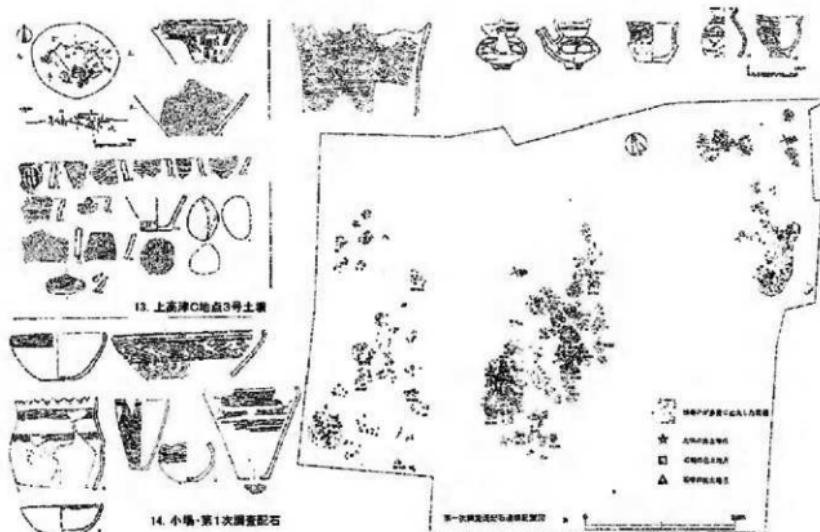
第6図 注口土器集成図—千葉県(4)—

第1表 注口土器出土状況分類表

A 無込み(伴付なし)	1 石井内藏	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	B 土塗出土	5 群馬県から出土	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位
	2 棚政土器	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	6 配石墓構下の土器	b 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
	b 潛底出土	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位		b 潜底出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
B 土塗出土	1 注口土器の 一例(大きな土器) (屋外埋蔵土器)	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	7 楼上小石付土	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
	2 深い土塗	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位		b 潜底出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
	3 小型穴吹の土塗	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	8 塚石伴付例	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
	b 潜底出土	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	9 人骨・獣骨に伴付	b 潜底出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
	4 井戸状の土塗	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位		b 潜底出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	
	b 潜底出土	a 単塗出土 ア 正位 イ 沈位 ウ 横位 エ 斜位	c 配石遺塚から出土		
			d 潜物塚中央部分出土		
			e 墓谷・田角浦		



第 7 図 注口土器集成図—茨城県(1)—



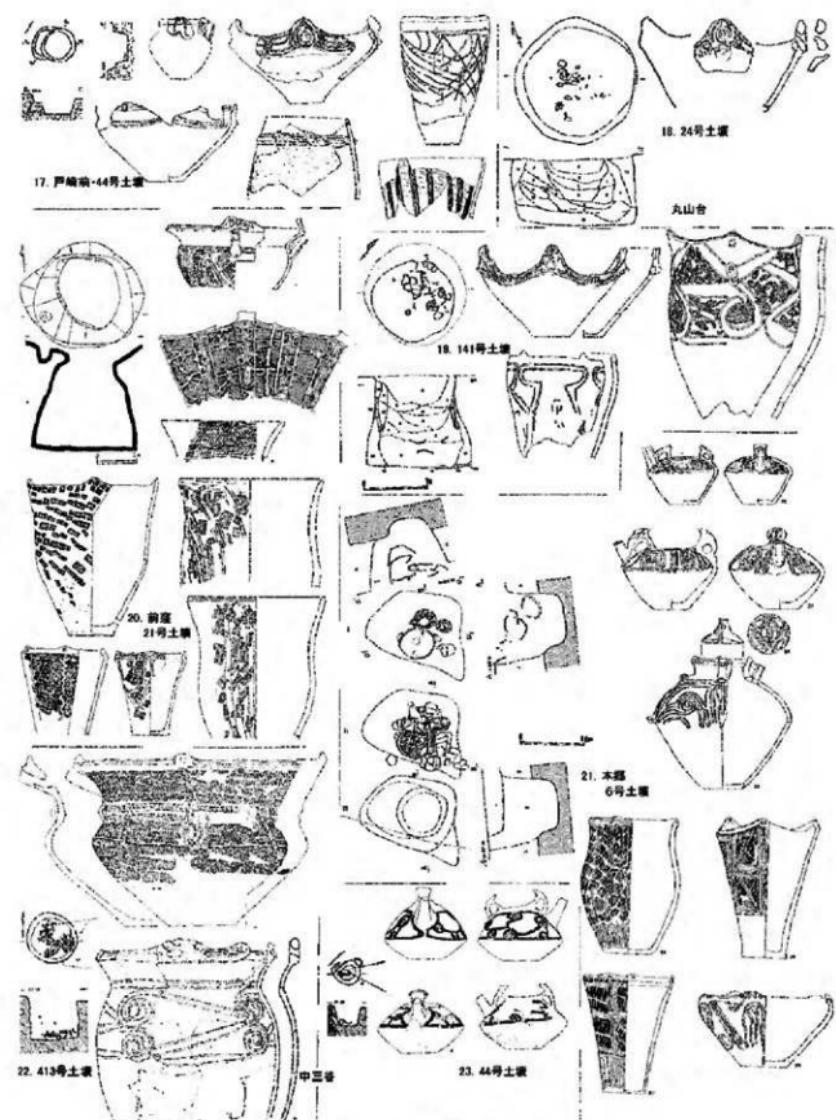
第8図 注口土器集成図—茨城県(2)—

(7図10) (茨城)・櫛沢SK333(14図15) (栃木)・東山K地点1号土塚(17図7) (東京)・中島D4(19図11)・同D373(19図12)・三原田2-113-Cpit(20図17)・同3-P22-Dpit(20図18)・鳥取福蔵寺II D123(20図20) (群馬)。III期一馬場小室山8号土塚(11図26) (埼玉)。

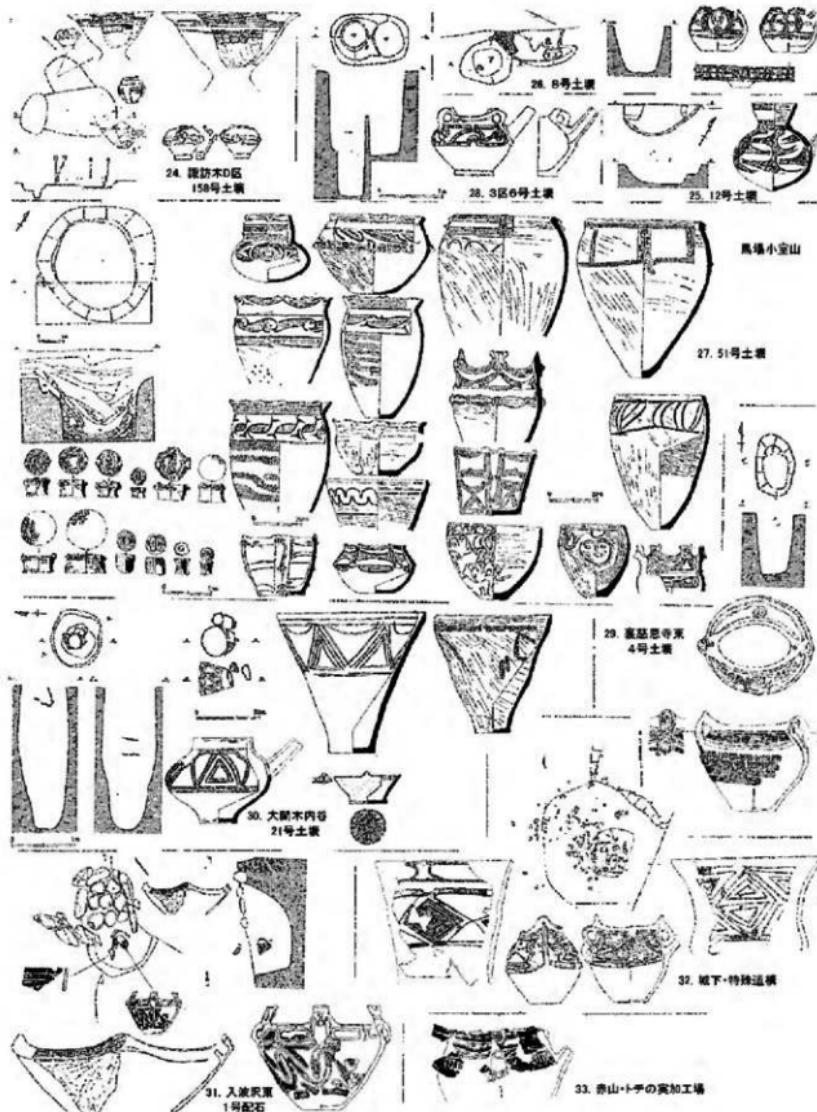
b-他の土器と複数個体出土例 I期一六崎貴船31号土塚(3図13) (千葉)・砂川21号土塚(7図1) (茨城)・御城田SK750(14図8)・梨木平P18(14図17) (栃木)。梨木平例は、加曾利E1式期新段階。六崎貴船例は、加曾利E4式の瓢形土器。II期一武士83号土塚(3図7)・内野第1D402(3図11)・下水105号土塚(4図17)・三輪野山SK042(5図28) (千葉)・小堤13号土塚(7図5)・巡り地A250号土塚(7図2)・常福寺8号土塚(7図3) (茨城)・吹原26号土塚(9図16)・戸崎前44号土塚(10図17)・丸山台24号土塚(10図18)・同141号土塚(10図19)・前庭21号土塚(10図20)・本郷6号土塚(10図21)・中山谷41号土塚(10図22)・同44号土塚(10図23) (埼玉)・小鍋前SK907(13図7)・同SK927(13図8)・同SK982(13図9)・上り戸SK2067(13図12)・櫛沢SK166(14図16)・野沢石塚SK103(14図19)・同SK301(14図20)・藤岡神社S429(14図21) (栃木)・帷子峯54号土塚(15図2) (神奈川)・和田百草園(17図5) (東京)。前庭21号土塚では注口土器1・深鉢形土器8点が出土。中山谷41号土塚では底面から堀之内2式期の注口土器2点が出土。本郷6号土塚では注口土器3・深鉢形土器8・鉢形土器1点が共伴。帷子峯54号土塚は、底面から注口土器1・小型土器4・ミニチュア土器6点・石棒様土製品が出土。和田百草園は柄鏡形住居前面の土塚底面から出土。IV期一墨古沢1231土塚(4図16) (千葉)・諏訪木58号土塚(11図24) (埼玉)。V期一小堤3号土塚(7図4)・小場SK22(7図11)・幡台2号土塚(7図12) (茨城)・馬場小室山51号土塚



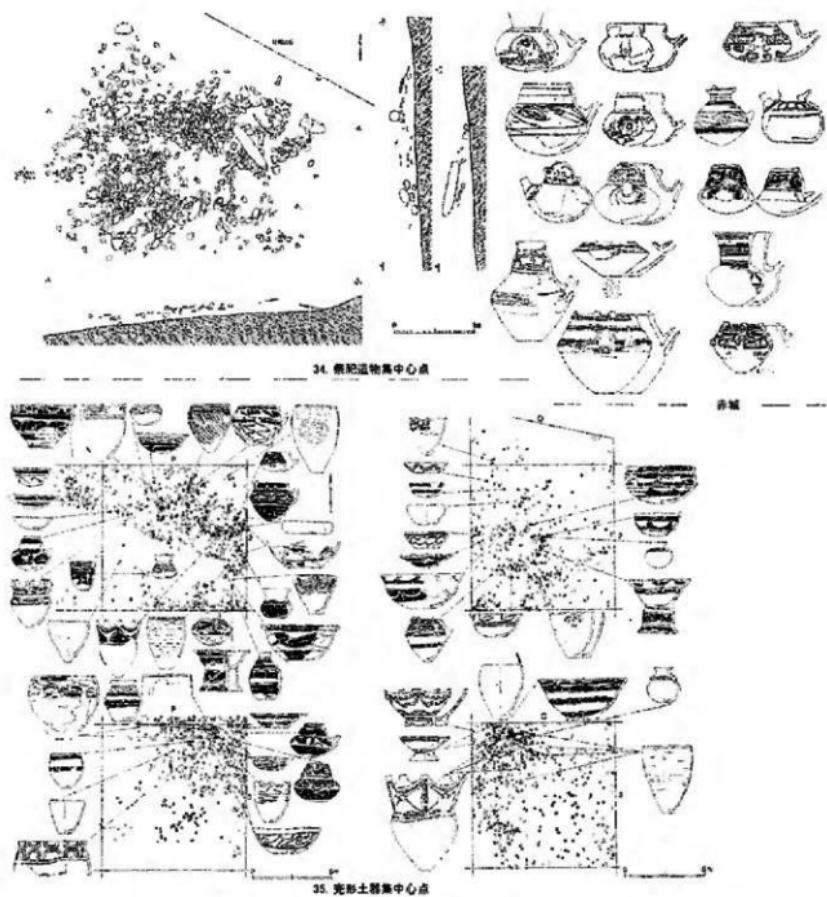
第9図 注口土器集成図—埼玉県(1)—



第10図 注口土器集成図—埼玉県(2)—



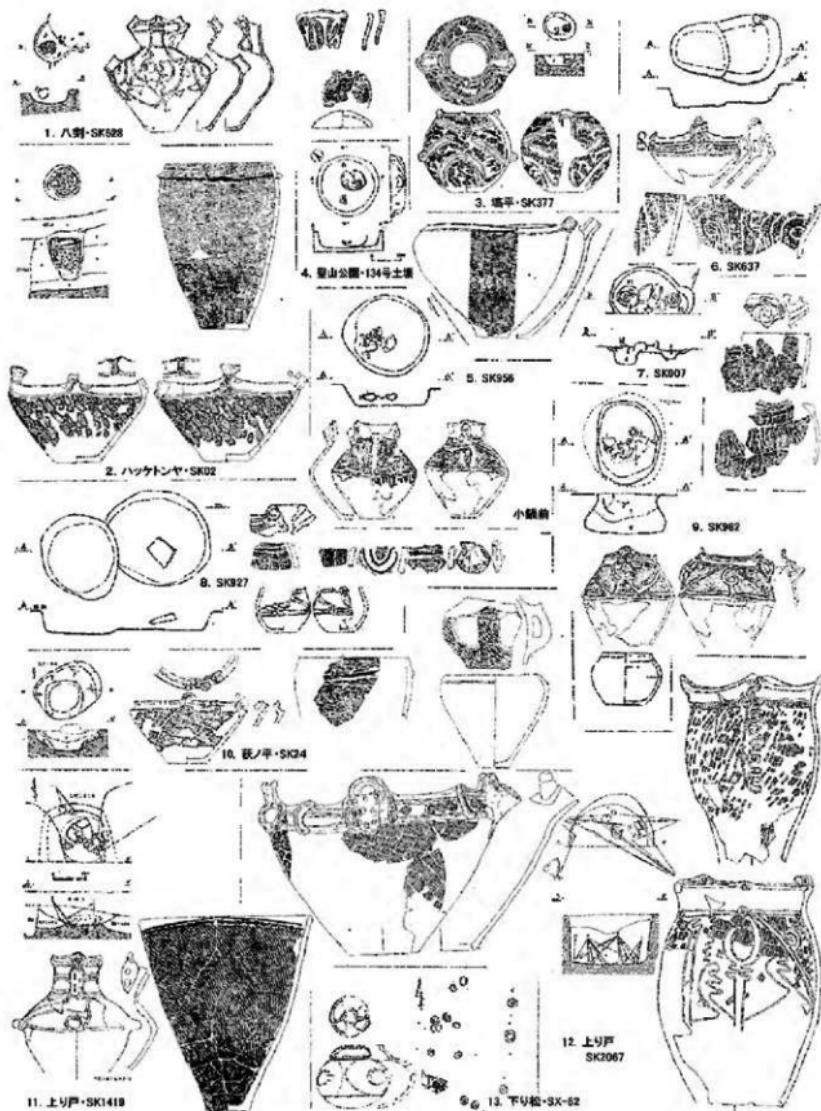
第11図 注口土器集成図—埼玉県(3)—



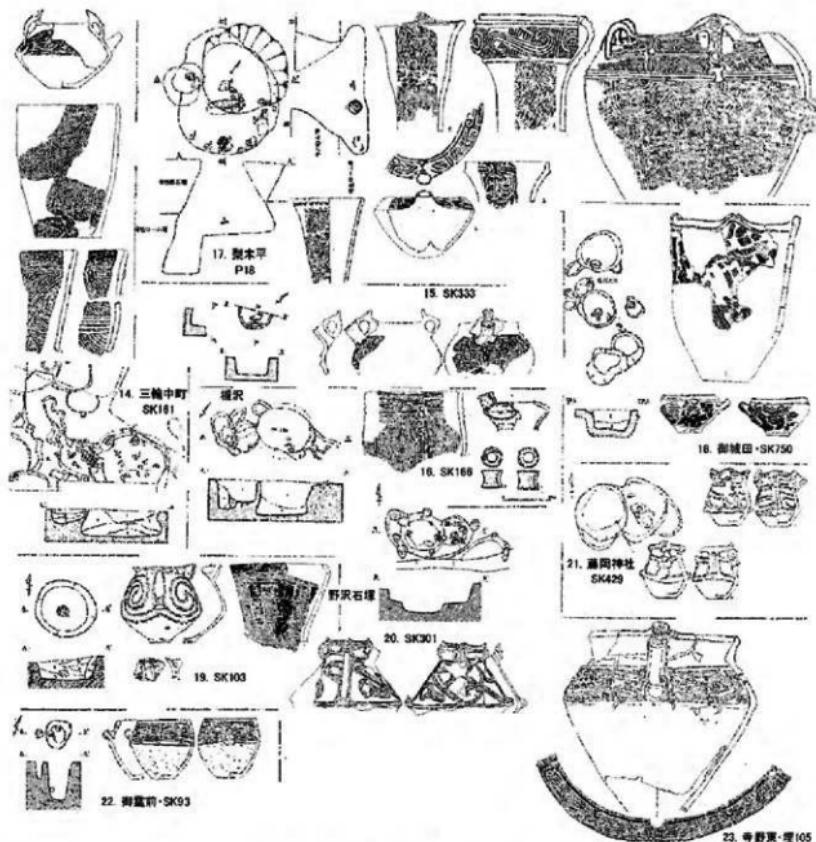
第12図 注口土器集成図—埼玉県(4)—

(11図27)(埼玉)。馬場小室山51号土壙は、直径4m前後の大型土壙で、灰層と炭化物層・獸骨層から、人面付土器を含む土器38個体と耳飾15点が出土。

4—井戸状土壙からの出土例 a—単独出土 Ⅱ期—裏慈恩寺東4号土壙(11図29)・馬場小室山3区6号土壙(11図28)(埼玉)。Ⅲ期—御臺前S K93(14図22)(板木)。Ⅴ期—板園原216号土壙(3図3)(千葉)。b—他の土器と複数個体出土例 Ⅱ期—武士86号土壙(3図8)・下水127号土壙(4図18)(千葉)・大間木内谷21号土壙(11図30)(埼玉)。Ⅲ期—野田129号土壙(4図19)(千葉)。Ⅳ期—野田35号土壙(4図



第13図 注口土器集成図—栃木県(1)—



第14図 注口土器集成図—栃木県(2)—

20)・同93号土壙(4図21)・能満上小113号土壙(4図23)・井野長割9号土壙(4図27)(千葉)。能満上小13号土壙は深さ2.61mで、注口土器1・深鉢形土器3・台付鉢形土器1点が出土。V期ー野田29号土壙(4図22)・井野長割28号土壙(5図26)(千葉)・前田村781号土壙(7図7)・同2365号土壙(7図8)(茨城)。井野長割28号土壙からは、注口土器1・深鉢形土器5・鉢形土器4・角底形土器1点が出土。馬場小室山5号土壙同様に灰層と炭化物層が検出されている。注口土器は底部穿孔の大洞系土器。

5ー群集墓からの出土例 aー単独出土 II期ー小丸102号土壙・同105号土壙(15図9)・西ノ谷P40(15図11)(神奈川)・久ヶ原小学校内J13号土壙(17図3)・同J14号土壙(17図4)(東京)。III期ー八幡台1号土壙(16図2)(神奈川)・なすな原310号土壙(17図9)・同377号土壙(17図10)(東京)。八幡台遺跡では底面か





第16図 注口土器集成図—神奈川県(2)—

ら加曾利B式の注口土器が正位の状態で出土。5号土壙からは耳栓が出上、6号土壙底面では高濃度のリン酸が検出されている。

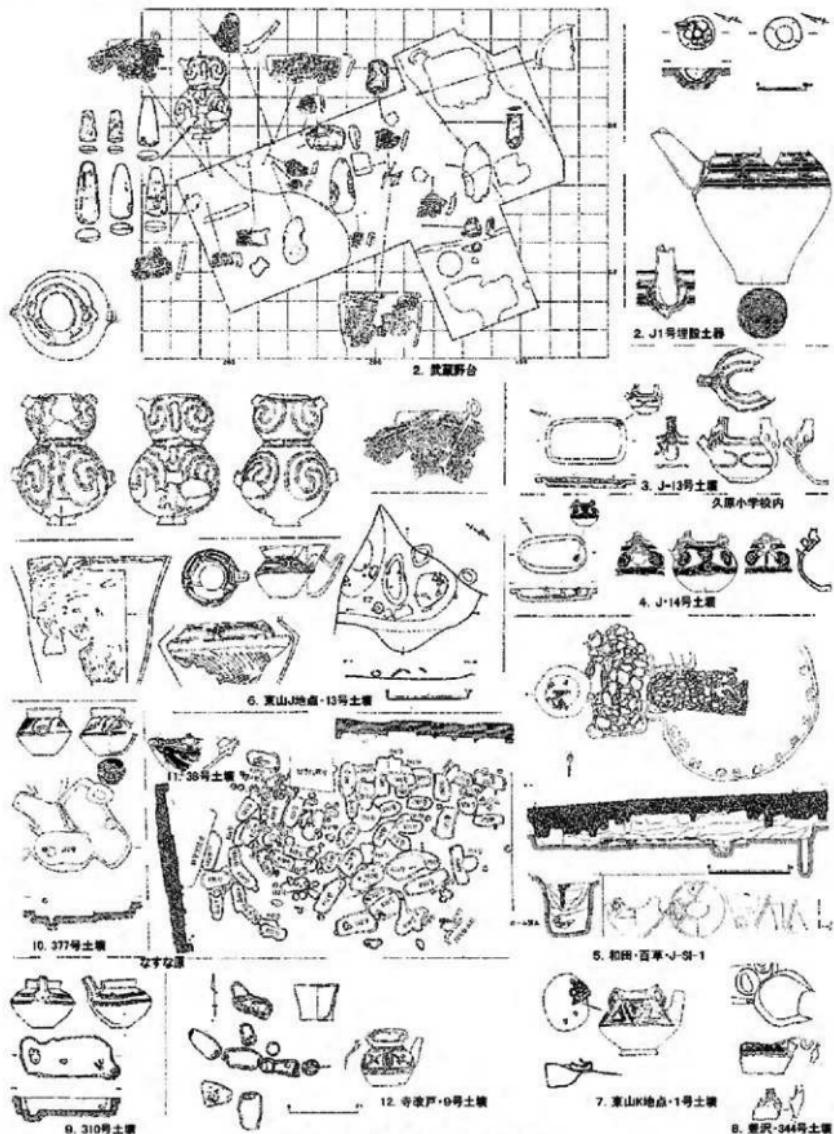
b—他の土器と複数個体出土例 Ⅱ期一小丸96号土壙(15図10)・原出口60号土壙(16図13)(神奈川)。小丸96号土壙ではこの他に、7号・26号・29号土壙から小型土器が出土。原出口60号土壙では堀之内2式の小型深鉢形土器と共に。Ⅲ期一池端金山3号土壙(16図14)・華藏台3号土壙(神奈川)・寺改戸9号土壙(17図12)・野津田上の原H42号土壙(18図13)・同H48号土壙(18図14)・同J66号土壙(18図15)・同J69号土壙(18図16)・N4号土壙(18図17)(東京)。Ⅳ期一なすな原383号土壙(18図11)(東京)。

6—配石遺構の土壙からの出土例 Ⅱ期一入波沢東1号配石(11図31)(埼玉)。Ⅲ期一下矢戸13号土壙(16図5)(神奈川)・田端(18図18)・なすな原413号土壙(18図19)(東京)・深沢16号土壙(20図21)・五科野ヶ久保2号敷石(20図25)・今井東平(群馬)。なすな原例は、配石下の土壙で、上面に石棒6・石剣5・独鉛石2点が出土。深沢例はC区配石遺構の北側に位置し、注口付双口土器が出土。今井東平例では、配石遺構下の埋葬施設を思わせる石囲い施設から、極めて類似する2個体の加曾利B式の注口土器がセットで出土。Ⅳ期一五反目10号石棺墓(神奈川)。歯・骨小片の他に土製耳飾が伴出。

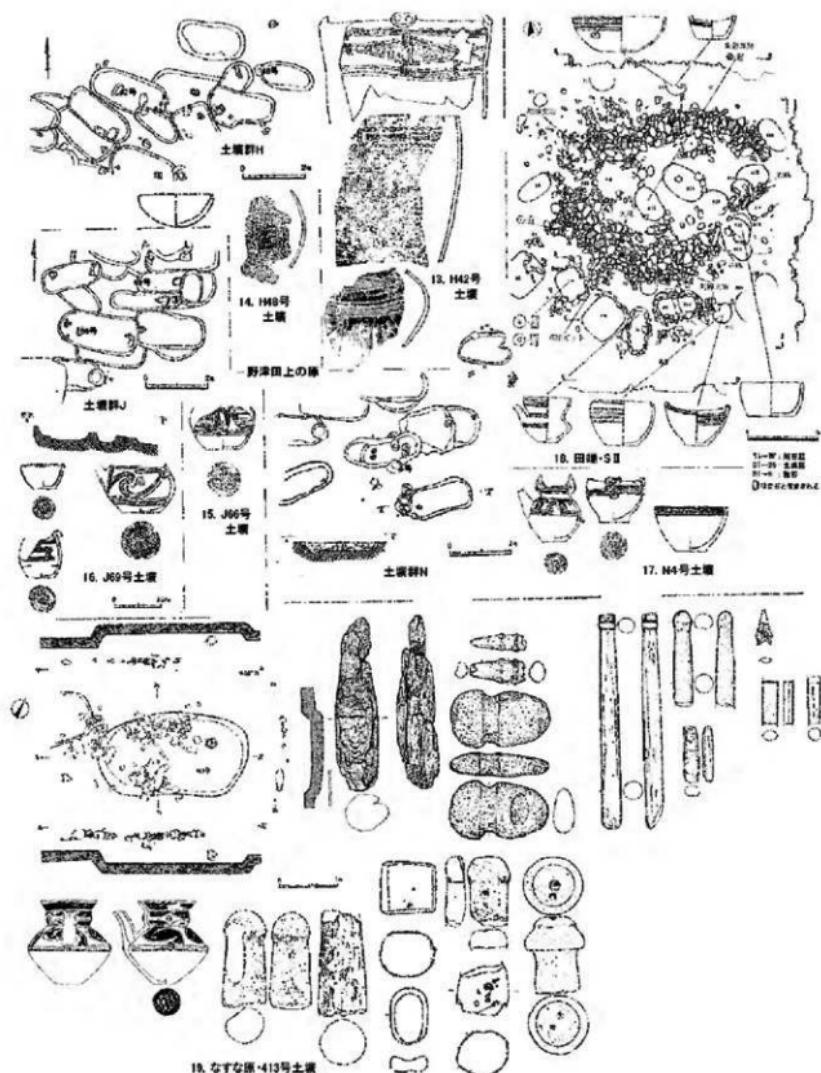
7—焼土を伴う例 Ⅱ期一稻荷山24号焼土址(16図16)(神奈川)。焼土上に浅鉢形注口土器が載る。

8—集石からの出土例 Ⅰ期一高速2号線(No.6)1号集石遺構(神奈川)。

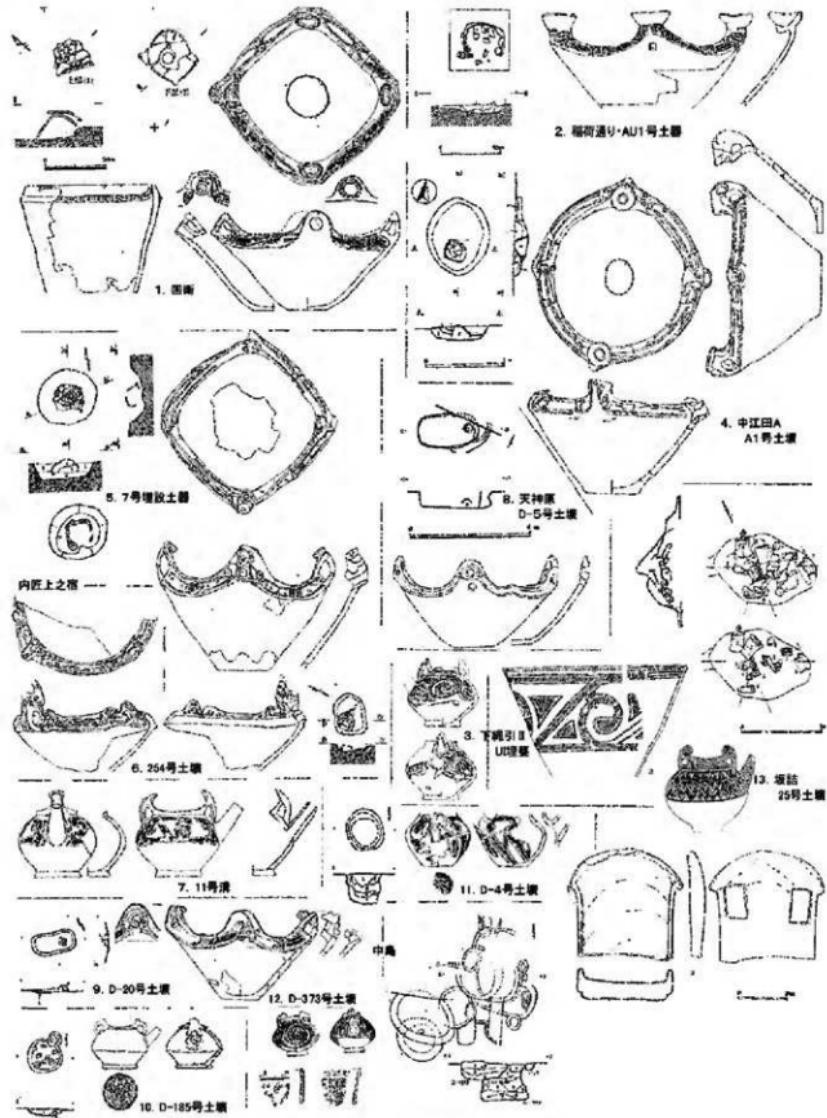
9—人骨・獸骨に伴う出土例 a—人骨に伴うもの アー土壙より出土 Ⅱ期一閑井戸鎌之助37号土壙(5図29)(千葉)。Ⅳ期一内野第1(6図30)(千葉)。閑井戸鎌之助例は、円形の土壙から堀之内1類型の注口土器が出土。内野第1例は、屈葬の2号人骨骨盤下から、安行2式の注口部破片が出土。周辺からは黒曜石の細かいチップが多く出土している。他に、人骨に伴う例として、大山柵調査による加曾利貝塚例(6図31)と、明治大学調査の大山貝塚M地点例(6図32)があるが、共に住居床面からの出土である。



第17図 注口土器集成図－東京都(1)－



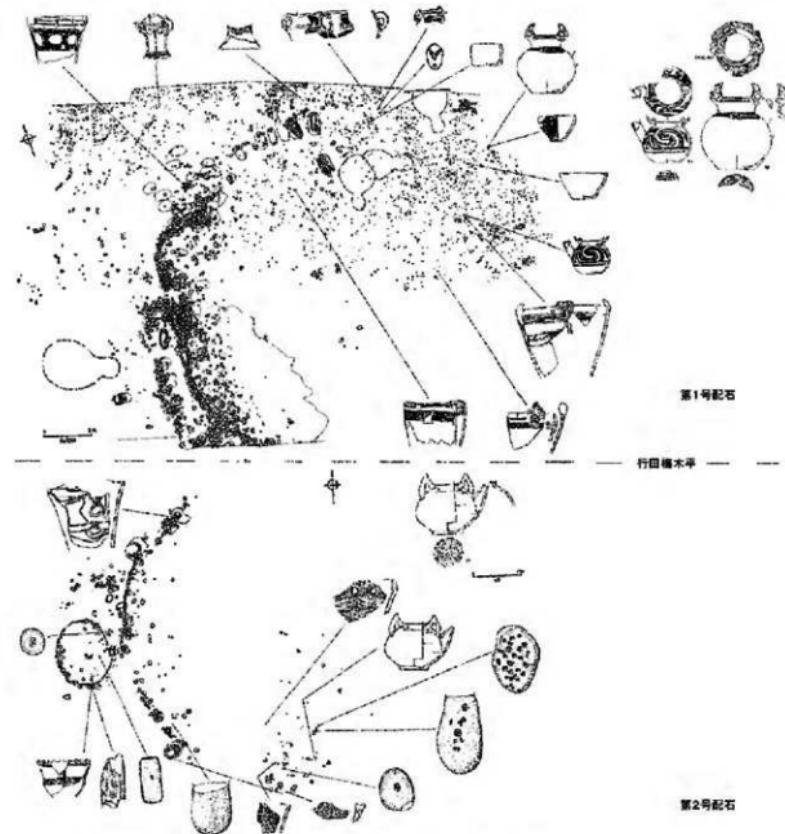
第18図 注口土器集成図－東京都(2)－



第19図　口付土器集成図一群馬県(1)一



第20図 注口土器集成図一群馬県(2)一



第21図 注口土器集成図—群馬県(3)—

b—獣骨に伴うもの　II期—上高津C地点(3号土壤(8図13)(茨城)・稻荷山1号埋葬犬(16図17)(神奈川)。宮本台1号住居(千葉)では、猪頭骨と堀之内2式の注口土器が出土

C—配石遺構からの出土例　II期—前中後II 4c-2列石(20図25)・行田梅木平1号配石(21図27)・同2号配石(21図28)(群馬)。前中後II 4c-2列石では、弧状列石の中央東脇に据え置かれており、列石の西側には石棺墓・土壙墓が展開する。

D—完形土器・祭祀遺物集中地点　赤城遺跡(20図34-35)(埼玉)。

E—旧河川　諏訪木C区(埼玉)・下田(群馬)。

以上、出土状況別に観てきたが、次に時期毎の流れを追う。I期は、瓢形土器に磨製石斧を内蔵する

第2表 間島地方の住戸主層出土地質一覧表

(註4)。デボ的出土(武藏台)、小堅穴出土(佐野Ⅱ一石棒を伴う)、墓壙(羽沢大道)出土があり、鉢形土器は、屋外埋設(ささら・聖山公園)が認められる。Ⅱ期では、瓢形土器は屋外埋設(帷子峰・北原)のみ。浅鉢形土器は、国衙類型とされるものが、屋外埋設(国衙・中江田A・天神原・中島)と、小堅穴(丸山台)から、全て逆位の「伏鉢」の状態で出土している。この土器の変遷については既に分析が加えられおり、「伏鉢」が加曾利B式期まで継続することが確認されている他(文献3)、中部地方を中心とした分布を示すことが判明している(文献4)。Ⅱ期の堀之内1式後半から、小形の算盤玉形を呈する堀之内類型が出現する(註5)が、これらはB5の墓壙群に多く伴い、大形土器と共に伴する例(神明・中山谷)と、単独出土例(小丸・久原小学校内)がある。北関東では、網取式の浅鉢形土器が、合口の蓋(ハッケトンヤ)や配石遺構下の土壙(入波沢西)から出土する。棚木沢SK133では、対の耳飾が伴っており、寺野東埋102では、ヒトカイヌと思われる脂肪酸が検出されている。Ⅲ期では、Ⅱ期後半で認められた墓壙群が、西関東で全面的に展開する(野田上の原・なすな原)。副葬品は、鉢・壺等の小形精製土器と注口土器が併用され、注口土器を欠く遺跡も認められ(註6)、時期的な相違が指摘されている(文献5)。これに対して、群馬県では、配石遺構に注口土器が伴い(前中後II・行田梅木平)、地域性が認められようになる(文献6)。このような現象は西関東で認められるもので、千葉県を中心とした東関東の変遷はよく解っていない。I期とⅡ期には、瓢形注口土器の小堅穴出土(I期一江原台・六崎貴船 II期一三輪野山)例が認められるが、Ⅱ期以降はV期まで井戸状の深い土壙出土が主体となる。このタイプの土壙は、堀之内式以降に多く認められる貯蔵穴で、大宮台地南部から千葉・茨城にかけて多く検出され、犬の埋葬頭骨が検出されている例(前田村D区496号土壙)(文献7)もあり、墓壙や祭祀儀礼説等の意見が出されている(註7)。V期の馬場小室山51号土壙や井野長割28号土壙では、覆土中から木枠の存在を示唆する炭化物が検出され、地下埋納施設の存在が示唆されている(文献9)。東関東では、注口土器が人骨に伴う例(間戸謙之助・内野第1)があるが、III期の千代田遺跡群の墓壙群では注口土器の参画はなく(文献8)、V期では注口土器が石棒等と集中して出土する遺跡(赤城祭祀遺物集中地點)が認められる等、注口土器が直接葬送儀礼に関与するのではなく、祭祀的色彩が強い出土状態を示している。

3. 花輪貝塚出土の埋設注口土器の系譜

花輪貝塚の埋設注口土器の類例は、今回集成した中では、僅かに栃木県小鍋前SK956(10図5)・SK982(10図9)があるのみで、両者とも堀之内1式期に比定されている。文様の特徴となる、渦巻文と磨消繩文は、全面繩文→沈線→磨き・磨消帯形成の順で施文が行われており、渦巻文と注口部から垂下する磨消帯の上下には円形の列点がある、このような施文工程と文様構成を持つ土器は、県内では清水13号土壙(大台遺跡群)(註8)に類例が求められる他はあまりなく、今後の資料集成と分析が更に必要である。

調査終了後、新たに注口土器の破片をB貝層から採集した(2図3)。刺突を施す弧状の貼付は、神奈川県西ノ谷P40(15図19)に類例が求められるが、加曾利B2式の異形台付土器の中にも類似する技法が認められ(註9)、今後の検討を要する。

花輪貝塚では、斜面部貝層と住居は堀之内2式期であるのに対し、屋外埋設土器と注口土器および人骨は堀之内1式期の可能性が高い。都川を挟んだ南側に対峙する押元貝塚も、当該期の貝層と歯骨層の形成が試掘調査で確認されており、下流の矢作貝塚は豊富な骨角器より漁労專業集団の存在が示唆されている。都川下流域では、ほぼ同じ時期に性格が異なる貝塚が存在する様相が認められ、加曾利貝塚および周辺の

遺跡との関係が今後の課題となる。

今回の集成は、鶴岡英一・西野雅人両氏からの、市原市閑戸縁之助遺跡の石棒と注口土器の資料提示が契機となった。また、石田守一・大熊佐智子・高麗 正・水岡弘章・暮沼香未由・小菅将夫・秋田かな子・加藤 緑・江原 英・野田市教育委員会・大洗町教育委員会・岩宿博物館・東海大学校地内遺跡調査団・大田区立郷土博物館の各氏、各機関には、類例の紹介や資料の提供を受け、多くのご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。

((財)千葉市教育振興財团 埋蔵文化財調査センター)

註

- 屋外埋設土器 23 基が検出されているが、堀越正行氏は、「土器大片や小形土器が横倒しに押し潰されていると判断され埋設の可能性は薄い」ものがあるとして、屋外埋設土器を 11 基とし、当該土器を屋外埋設土器からはずしている。なお、氏は当遺跡を環状土壙墓群と捉えている。
堀越正行 1985 「市川市株木東遺跡環状土壙墓群考」『史館』18
堀越正行 2001 「株木東遺跡」『千葉県の歴史 資料編 1 (旧石器・縄文時代)』千葉県
- 『埼玉県史』では、本例を土壙墓としている。大磯小学校では、2 個体の注口土器はトレンチ内の同一レベルから出土している。
底面付近からほぼ完形の安行 3 a 式土器が 38 個体出土。底面上 40 cm の灰層からは安行 3 b 式頸の遺物と猪・鹿の歯骨が出土している。
- 注口土器は人骨に伴うものではなく、人骨下の住居に伴う可能性があるとの指摘がある。
- 国衙類型・堀之内類型とは、鈴木克彦氏によるもので、鈴木徳雄氏によるものとは異なる。
鈴木克彦『注口土器の集成的研究』
- 三の丸・石神(神奈川)・丸山 A(東京)など(文献 5)。北関東の乙女不動原北浦(栃木)の墓壙群でも注口土器の参画はない。丸山 A(東京)遺跡からは、土器に埴納された対の耳飾が出土している。
三沢正善 1981 「乙女不動原北浦遺跡—縄文時代晚期の土器墓について—」『栃木県考古学会誌』6
吉田至・下原祐司 2003 「三鷹市丸山 A 遺跡」『東京都遺跡調査・研究発表会 28 要旨』
- 鈴木正博氏は、底面に骨片・炭化物を伴う例(馬場小室山 30 次 7 号土壙)があることから、墓壙説を唱えている。また、能満上小 113 号土壙の調査を行った忍沢成規氏は、覆土形成が短時間に行なわれており、土器を意図的に分割埋納し、最後に火を燃やした土壤廢棄の祭祀禮を想定している。
鈴木正博 2005 「高井東遺跡から馬場小室山遺跡へ—「焼獸骨角小片群」、「住居址空間多目的利用」、そして「敷土遺構から所謂「環状盛土遺構」へ—」『埼玉考古』40
忍沢成規 1995 『市原市能満上小貝塚』(財)市原市文化財センター
- 7 土壙 3 の土器、報告者は加曾利 B 式としているが、堀之内 1 式である。胴部磨消帯や渦巻文が稚劣で、花輪例より古いと思われる。武士 086 土壙出土例も施文工様は同じと思われるが、形態が異なる。
浜谷 貞・荒井伸志記 1991 「大台遺跡群」『山武都市文化財センター発掘調査報告書第 8 収集』
- 広持遺跡(東京)・吉見台貝塚(千葉)等。
堀越正行 1995 「祭祀関連遺物」『関東地方後期の土偶—土偶シンポジウム 3 楠木大会—』

文献

1. 田中英世 2006 『千葉市花輪貝塚』 (財)千葉市教育振興財团
2. 長崎宏昌 1997 「山梨県内出土の注口土器について」『山梨県史研究』5
3. 鈴木徳雄 1992 「縄文後期注口土器の成立—形態変化と文様落の問題—」『縄文時代』3
鈴木徳雄 1992 「縄文後期浅鉢形土器の意義—器種と土器行為の変化—」『縄文時代』11
4. 中村耕作 2006 「縄文時代後期前半期の土器被覆葬」『史学研究集録』第31号
5. 中村耕作 2008 「縄文時代後期の土器副葬—関東・中部地方における葬送儀礼の一類型—」『神奈川考古』44
中村耕作 2008 「葬送儀礼における土器形式の選択と社会カテゴリ——縄文時代後期關東・中部地方の土器副葬と土器被覆葬—」『物質文化』86
6. 林克彦・細野千恵子 1997 「墓制から觀た地域性—縄文時代後晚期・関東地方西部の墓制の検討から—」『史共』29
青山学院大学史学会
7. 横堀孝能 1996 「前田村遺跡の円筒状土坑について」『研究ノート』6 (財)茨城県教育財团
8. 小川和博 2001 「千代田遺跡群」『千葉県の歴史 資料編1(旧石器・縄文時代)』千葉県
9. 鈴木正博・馬場小室山遺跡研究会 2006 「馬場小室山遺跡における「環状土塚」の研究—多世代土器を多数埋設する風習を中心として—」『日本考古学協会第72回総会研究発表要旨』
10. 大田区立郷土博物館 1987 『特別展図録 縄文の神祕 注口土器』
東海大学緑地内遺跡調査団 1997 『注口土器の美』
笠懸野岩宿文化資料館 1999 『群馬の注口土器』